（１０）東中筋小学校

学　　校　　長　　小島　良友
校内研究代表者　　濵田　千穂

１．研究主題

『伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成』
～「考え、議論する道徳科」を要として～

２．研究主題設定の理由

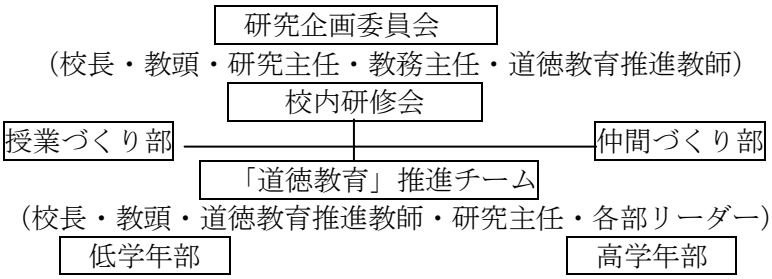
本校児童の学力の実態として、昨年度の学力調査の結果から見ると、６年生対象に行った全国学力学習状況調査の結果は、国語Ａが全国比－3.2、国語Ｂが＋1.6、算数Ａが＋1.5、算数Ｂが＋6.5、理科が＋3.5であった。また、4、5年生を対象に行った高知県学力定着状況調査の結果、４年生国語が県比＋5.8、算数が＋6.3、５年生国語が県比＋5.3、算数が－9.6、理科が＋3.5 であった。昨年度の学校経営計画の到達指標が到達できてない学年､教科もあり､学級内での学力面の２極化も顕在化し、支援の必要な児童も各学級にいる。そのため、更なる基礎・基本の定着と学力の向上を目指し、学習意欲を高め授業内容の質の向上を図るとともに、学習土台として、お互いに認め合い高め合う学習集団の育成に努めなくてはならない。また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを進めるために、学びの質的改善や授業スタンダードの更なる徹底に努めていくとともに、併せて、家庭との連携によって、学習習慣の定着、基礎・基本の徹底を図っていくことが今後も必要であると考える。

また本校では、地域との連携を基に「ふるさと教育」にも取り組み、体験活動や、探究的課題解決学習を進める中で、コミュニケーション力を育てるとともに、ふるさとを誇りに思う児童を育ててきた。更に、本校のよき伝統を充実発展させていくために、学校支援地域本部事業や東中筋地区青少年を育てる会との連携を密にし、地域を知りふるさとを誇りに思う児童の育成や、児童会や縦割り班の活動を通して、お互いに協力する児童の育成に努めてきた。しかし、児童の実態として、素直で真面目に努力できる児童も多い一方で、自分の思いを相手に十分に伝えることができない児童、自尊感情や自己有用感が高まっていない児童、相手とのかかわり方に課題がある児童等が見られる現状があった。

そこで、昨年度より高知県教育委員会の「道徳教育推進拠点校事業」の指定を受け、「考え、議論する道徳の授業」を要として、自らの生き方を振り返り、よりよく生きようとする態度を育てることを通して、お互いに認め合い尊重し、共に高め合っていこうとする児童の育成を図っていくことに取り組んできた。自尊感情や自己有用感を高め、自他を尊重しお互いに認め合い、思いやりの心をもった児童を育成することは、豊かな心を育成するだけでなく、確かな学力作りの基盤となるものであると考える。

このような趣旨から、昨年度に引き続き今年度も、研究主題を「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」、副題を～「考え、議論する道徳科」を要として～とし、全教職員で共通理解を図りながら研究を深めていくこととした。

３．研究組織



４．実践や研究の進め方

1．道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実に関する実践研究
・道徳教育の全体計画、年間指導計画、別葉の見直し
・ユニット化による道徳の授業の深化と道徳と生活のリンク

2. 道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業実践の研究
・校内研修の充実、授業研究における協議の視点の明確化、指導過程の工夫、話し合いの工夫
・板書の工夫、教材・教具の充実、道徳教科書の活用の充実
3. 道徳科の趣旨を踏まえた評価の在り方に関する研究及び組織的・計画的な評価の推進
・評価の研究（児童評価、授業者評価、道徳教科書の活用）、道徳授業チェックシートの活用
4. 家庭・地域との連携を図った道徳教育の実践研究
・道徳参観日の充実、地域と連携した授業実践、道徳コーナーの充実、道徳アンケートの実施
・「家庭で取り組む高知の道徳」の活用、道徳便り・学校 HP での情報発信
5. 小・中連携した道徳教育の実践研究
・合同授業研究及び講師招聘による合同研修の実施

５．具体的な取組

○学校教育全体を通して取り組む道徳教育

・道徳朝会・・・・今年度の新しい取組。生活目標と道徳の価値項目を関連付け、児童自身の取組によって普段の生活と道徳的価値を結びつけることをねらいとし、教師の2部会と児童会、委員会が担当して行う。

・委員会の取組・・道徳朝会の提案をもとに、各委員会で取組を話し合い全校に呼びかけて取組を行う。

・その他の活動等・従来から行っている朝会活動等（挨拶・ありがとう朝会、ペア読、青空朝会、なかよしタイム等）で仲間づくりと自己有用感の向上を図る。また、学校行事や教科等と関連させて道徳授業を行う。

○授業改善の取組

・ユニット化・・・学校重点項目に合わせ各学期でユニットを組み、授業を実施。1学期「親切・思いやり」、２学期「善悪の判断・自律・自由と責任」、３学期は学級の実態に応じて授業を行う。

・授業づくり講座・他校の先生方、講師を招き、４・６年が教材研究会、授業研究会を実施。

・校内研・・・・・指導案検討（ブロック）→模擬授業（全体）→研究授業→事後研究の流れで授業研究を実施。多面多角、自分ごと、主題に迫るの３点に視点を絞って協議を行う。

・授業改善・・・・道徳教育推進教師が学級担任と毎時間の授業参観、事前・事後研を行い、授業記録、板書の写真を残す。板書は職員室に掲示する。

○家庭との連携

・道徳参観日・・・保護者参加型の授業も。保護者対象の道徳アンケート、「家庭で育てる高知の道徳」の紹介もあわせて行う。

・親子道徳の日・・道徳について親子で考えたり話したりすることをねらいとし、今年度初めて実施。「高知の道徳」に児童が自分の良さを記入して帰り、保護者も我が子の良さを記入。保護者のメッセージは道徳だよりで紹介する。

・「高知の道徳」・学期に１回、全校児童が同じページに記入して持ち帰り、保護者にも記入を依頼。また、学級担任が授業の際にも活用。

・道徳便り・・・・各学年の授業の様子、朝会の様子等を紹介するとともに、「高知の道徳」に記入してもらった保護者のメッセージを紹介する。

○評価の研究

・児童,授業評価・ 校内研で評価の在り方について研修し共通認識を図る。道徳教育推進教師は

授業力チェックシートを用いて毎時間の授業評価を行うとともに授業記録を残し、児童評価に活用。

○小中連携

・授業研究・・・・小学校の授業づくり講座、中学校の中間発表会に参加し、研修に努める。

６．成果と課題

〈成果〉

・児童道徳意識調査の結果、「道徳の授業が好き」肯定的評価 98%、「道徳の授業では自分の考えを伝えたりほかの人の考えを聞いたりしながら自分のことについてよく考えている」同 100%、「将来の夢や目標を持っている」同 98%等、肯定的評価の高い項目が増えた。（12 月実施）

・道徳朝会、委員会の取組により、学校全体の意識化につながった。

・授業づくり講座、研究授業を通じ、より多くの視点からの意見をもらい、発問や問い返し、板書等学びが多く、教員の授業改善への意識の高まりがみられた。

・ユニット化により、児童教師とも教材のつながり、価値のつながりを意識し、考えを深めることができた。

〈課題〉

・児童意識調査の結果、「家の人と道徳の話をしたり『高知の道徳』を読んだりしている」肯定的評価 66%、「自分には良いところがあると思う」同 72%と依然低い。

・行事や他教科等との関連、ユニットや委員会の取組について改善・精選が必要。

・児童主体の「考え、話し合う道徳の授業」を展開するための研究の充実。